

学界消息

史学研究會關係

例会 二月二日(土) 午後一時 楽友会館

二圃農法の歴史地理的意義 水津 一朗氏
ボナバルト独裁への途 豊田 堯氏

明治維新に於ける宗教問題 藤谷 俊雄氏

例会 五月十一日(土) 午後一時 楽友会館

日本古代の歴史と地理に関する諸問題

大和朝廷の勢力圏の問題 小林 行雄氏

地方豪族の構造の問題 門脇 禎二氏

律令都市の歴史地理的性格の問題

藤岡謙二郎氏

例会 六月十五日(土) 午後一時 陳列館内

西南アジア史の諸問題

アラビア地理書に現れた灌溉について

藤本 勝次氏

二つの乾燥地帯 梅棹 忠夫氏

西南アジア史研究の動向 中原与茂九郎氏

例会 七月六日(土) 午後一時 楽友会館

中国考古視察談

(スライド使用)

水野 清一氏
樋口 隆康氏
岡崎 敬氏

国史關係

読史会二月例会 二月九日(土)

午後一時 於京大陳列館演習室

明治初期軍制についての二・三の問題

梅溪 昇

幕末泉州における木綿機業と農民分解

中村 哲

読史会卒業生予餞会 三月一日(金)

午後四時 於京大楽友会館バーラー

本年度卒業生一四名中一二名と、小葉田・赤松・柴田教授ら教官・先輩・学生四八名

が出席して乾杯、卒業生の前途を祝した。

読史会四月例会 四月一三日(土)

午後一時 於京大陳列館演習室

近世の宿場町について

朝尾 直弘

近世在郷町の形成

協田 修

読史会五月例会 五月二五日(土)

午後一時 於京大陳列館演習室

庄園制解体期の山城国上久世庄

—— 永正四年算用帳を中心に——

賀茂六郷の再建

上島 有
石田 善人

読史会春季大会 六月一六日(日)

午前九時 於京大文学部第八教室

古代村落支配の一考察 八木 充

—— 勝姓集団の場合 ——

遠隔地荘園の一・二の問題 工藤 敬一

—— 島津庄の場合 ——

友愛会の性格について 松尾 尊允

近世初期農村の発展について 高尾 一彦

倉下三題 蘭田 香融

享保前史の一考察 宅間 博

—— 吉宗の継続をめぐる ——

労働運動史研究の反省 渡部 徹

大田植と村落構成 平山敏治郎

終了後、進々堂にて茶話会を催した。

読史会七月例会 七月一三日(土)

午後一時 於京大陳列館演習室

日本ファッションと中小資本 江口 圭一

国領内における在家について 戸田 芳美

大阪歴史学会春季大会 六月三〇日(日)

午前九時 於関西大学大学院

テーマ「天平期の政治形態」

光明立后の史的意義 岸 俊男

光明皇后と皇后宮職 井上 薫

討 論 議長 直木孝次郎

吉田 晶

テーマ「大阪周辺における在郷町

(農村都市)の生成と展開」

問題提起 塩野 芳夫

近世初期における在郷町の発達

中部よし子

幕末の絞油業の発展 酒井 一

封建崩壊期における摂津平野郷の

変質過程 山口 之夫

——線綿の流通より見たる——

討 論 議長 鷺見 等曜
長倉 保

閉会后、ホールで懇親会が催された。

大谷大学国史学会春季研究発表会

六月二二日(土)午後一時 於大谷大学

陰陽道の祭 鈴木 昭英

古往来の仏教思想 磯 信雄

大安寺の平城京遷移について 堅田 修

文化史学会第三回大会 五月一日(土)

午後一時 於同志社大学明徳館

欧米における日本史研究の現状

石田 一良

オドアケルの立場 角田 文衛

東 洋 史 関 係

東洋史旧制大学院研究発表会

二月例会 二月九日(土)午後二時

元代の竹の専売法

明実録の研究 井ノ崎隆興

高麗末期の改革に就いて 金 洪圭

——偽禍昌説に關して——

三月例会 三月九日(土) 兼子 秀利

隋代の三階教について 李 大熙

——信行の生涯を中心として——

江華遷都を中心として 塚本 俊孝

王建について 中谷 英雄

四月例会 四月十三日(土) 西村 元佑

中国奴隸問題の研究

晋の課田制について 中谷 英雄

五月例会 五月十一日(土) 西村 元佑

明代西北辺境の茶馬貿易について 谷 光隆

賢良文学 杉村 壮三

東洋史談話会新入生歓迎会

五月八日(水)

宇治平等院鳳凰堂の見学後、興聖寺にて歓

迎懇談会、出席者約二十名、

東洋史談話会 六月例会

六月十九日(木)午後一時 文学部第四

演習室

「中国史の時代区分」について

寺田 隆信

東洋史談話会 七月例会

七月四日(木)午後一時 陳列館第二教

室

中国の現状について 樋口 隆康

岡崎 敬

東方学会講演会 四月二十日(土)午後一時

人文科学研究所本館講堂

台湾に於ける歴史考古資料の

見聞について 梅原 末治

西 洋 史 関 係

西洋史読書会第四回春季大会 四月二九日

午前九時—午後三時 京大薬友会館

戦後史学でとくかえりみられなかつた歴

史における個性の理解の方法について、さま

ざまの角度から反省と検討が加えられた。

シンポジウム「時代と個人」

午前の部

開会の辞

中原与茂九郎

委員報告

ソロンの改革について

越智 武臣
藤 繹 謙三

ユリウス・カエサル

浅 香 正

ヘンリー八世と宗教改革

植 村 雅彦

フランス革命期における政治的個性と

その周辺

豊 田 堯

——バブーフの陰謀事件を中心に——

午後の部

T・ルーズベルト

志 邨 晃佑

討論(司会者 中山治一 衣笠茂 今津晃)

閉会の辞

井 上 智勇

日本西洋史学会第八回大会 五日十八・九日

神戸大学(六甲学舎)

本年度は、古代より中世(第一部)、中世より近代(第二部)、現代(第三部)に分かれて、土地問題を中心とした発表がおこなわれた。

越智武臣氏 英国留学

本会々員越智武臣氏は、ブリティッシュ・カウンスル招聘留学生として、八月十六日、神戸港を出帆された。ハル大学において地方史研究をむこう一年にわたつておこなう予定。

地 理 学 関 係

人文地理学会第二〇会例会 五月二十五日

京都大学図書館

京都市の漸移地帯

小 林 博

わが国の合成繊維工業と立地条件

内水面漁村の生活——琵琶湖沖ノ島

宮畑巳年生

人文地理学会第二一会例会 七月十三日

京都の農業

人文地理教育における地域調査

(8ミリ上映) 高垣又太郎

農業地理学的研究

本 岡 武

考 古 学 関 係

第十九回考古学協会総会及び大会

四月六・七・八日 東京大学

東京都小金井遺跡

吉 田 格

石器時代のアカニシについて

酒 詰 仲男

伊那谷における縄文式竈穴住居址の新例について

藤 沢 宗平

奥羽北部の続縄文式土器と弥生式土器の關係に対する一見解

江 坂 輝弥

北海道奥尻島の擦文土器を伴う

桜井 清彦

宮崎市吉村町の弥生初期の集落址

石川恒太郎

伊豆国分寺の伽藍配置

軽 部 慈恩

京都深草遺跡

杉 原 莊介

ベッドを有する弥生末期の方型

田 辺 哲夫

堅穴住居址群

栃木県における古墳出土品と

竈址遺物との關係

川 島 守一

竈址晚期における植物質の貯蔵

近 藤 義郎

猿投山西南麓古竈址群発掘調査概報

篠崎 彰一

瀬戸市山路町扶桑古竈址群の調査

久 永 春男

下関市安岡町梶栗浜遺跡

金 関 恕

飛鳥寺第二次調査

坪 井 清足

岡山県英田郡福本村の古代製鉄遺址

和 島 誠一

シンボジウム

古墳における伝世品の問題

榎 本 杜人

斎 藤 忠

縄文式土器より弥生式土器への移行の問題

伊 東 信男

久 永 春男

中国考古学視察団の訪中

中共政府の招聘により、東大名教授原田淑人団長以下八名が、四月十七日から六月一日まで一箇月半にわたつて、西安・洛陽・鄭州・敦煌・長沙・広州などの諸遺跡および各市の博物館や大学を視察した。京都大学からは水野清一、樋口隆康、岡崎敬の三氏が参加した。

兵庫県加西郡北条町・剣坂古墳の調査

七月十四日——二十八日。京大考古学教室小林行雄講師ほか教室員が参加した。横穴石室を主体とした円墳で、石室内の一部はすでに盗掘をうけていたが、玄室の両端に棺台と考えられる平石をおいた構造がしられ、須恵器、土師器、鉄製品類など多数の遺物が発見された。

香川県三豊郡詫間町・紫雲出弥生式遺跡の調査

八月十六日——三十一日。三十年十二月、三十一年八月につづく第三回の調査。小林行雄講師ほか考古学教室員が参加した。

綾部市栗町・以久田野古墳群の調査

八月十七日——二十七日。京大考古学教室西谷真治助手ほか二名によつて四基の古墳

を発掘した。いずれも経十六米前後の円墳であるが、うち一基では、長さ三・三米、巾〇・八米の木棺を直接封土中におさめ、土師器、鉄器類の副葬品は棺の中ばかりでなく、棺側や棺上にも配置している状態が判明した。

執筆者紹介

池田敬正 京都大学大学院学生
山岸義夫 群馬大学講師
岩見 宏 神戸大学講師
高沢裕一 京都大学大学院学生
島田正彦 帝塚山学院高等部教師
田中 稔 奈良国立文化財研究所員

編集後記

ここの残暑はことのほかきびしくて長いようでごさいました。が、秋声の音がなつかしくふるえるこの頃、御手許にこの第五号をおとどけするのはこびとなりました。ここにもられた力作を味つていただけることを一同うれしくおもっております。この雑誌も、まいど申し上げることですけれど、全国の会員からの積極的な御投稿をおまちしております。

なお、御投稿の場合は、枚数は四〇〇字詰五十枚まで、四〇〇字程度の要約を附して下さい。切は毎奇数月の十日、採否は編集部にお任せねがいます。(永井)

史林 (第四〇巻 第五号)

一九五七年八月二五日印刷
一九五七年九月一日発行

定価 百円

発行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事長 宮崎市定
編輯主任 赤松俊秀

印刷所

京都市下京区七条御所ノ内京町三九
中村印刷株式会社